

## 第六章

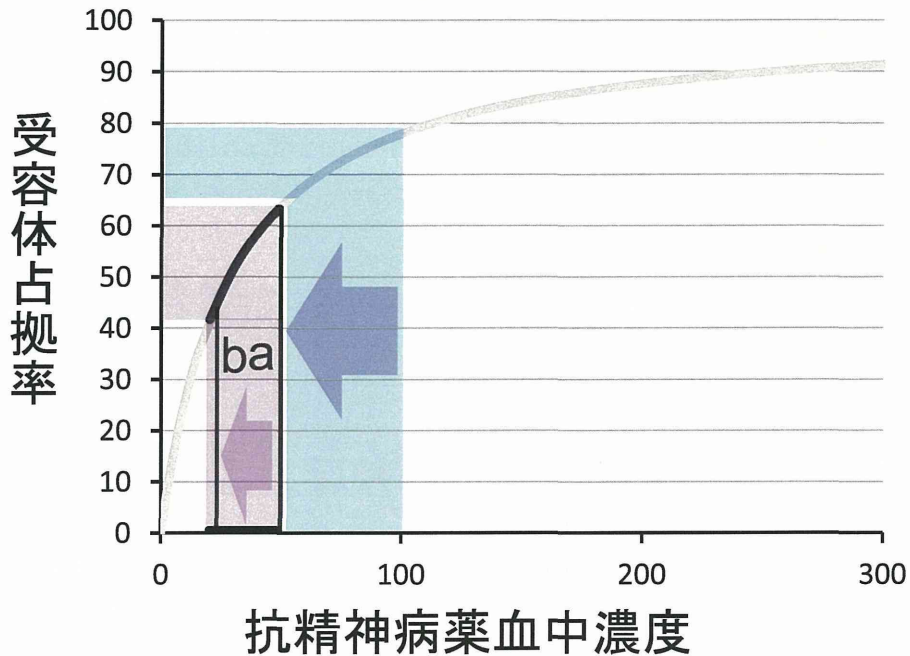
その他のD2受容体密度偏移に関わる病態:

- 老年期精神病
- 忍容性不良型統合失調症

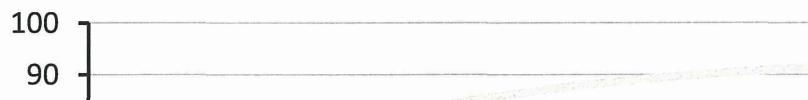
## 高齢発症精神病 (LOP)

低いD2受容体密度  
(D2受容体密度は加齢とともに減少する)

D2受容体密度と抗精神病薬の1血漿中消失半減期  
D2受容体数が60%に低下している場合



D2受容体密度と抗精神病薬の1血漿中消失半減期  
D2受容体数が60%に低下している場合



- 血漿中薬物濃度が消失半減期の短いものが望ましい。
- D2受容体とは弱い結合力(低親和性)のものが望ましい。



# 忍容性不良型

## D2受容体密度の領域差？

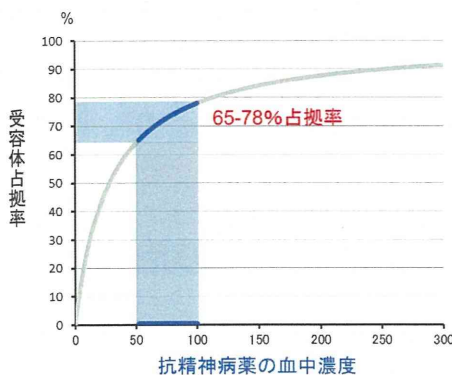
### 抗精神病薬で容易にジストニアが出現するタイプ

精神病に関与する側坐核と錐体外路症状に関与する線条体などにおけるD2受容体密度比が一般の統合失調症患者と異なる？

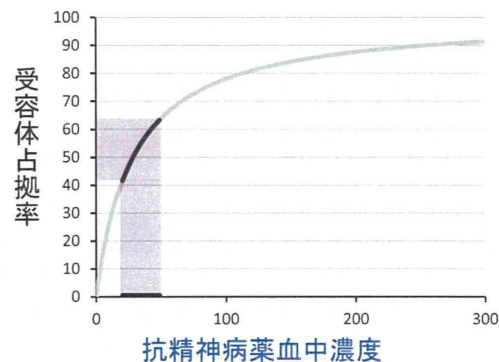
側坐核  
標準的D2密度

線条体  
60%減少したD2密度

抗精神病薬の至適D2受容体占拠率（治療域）

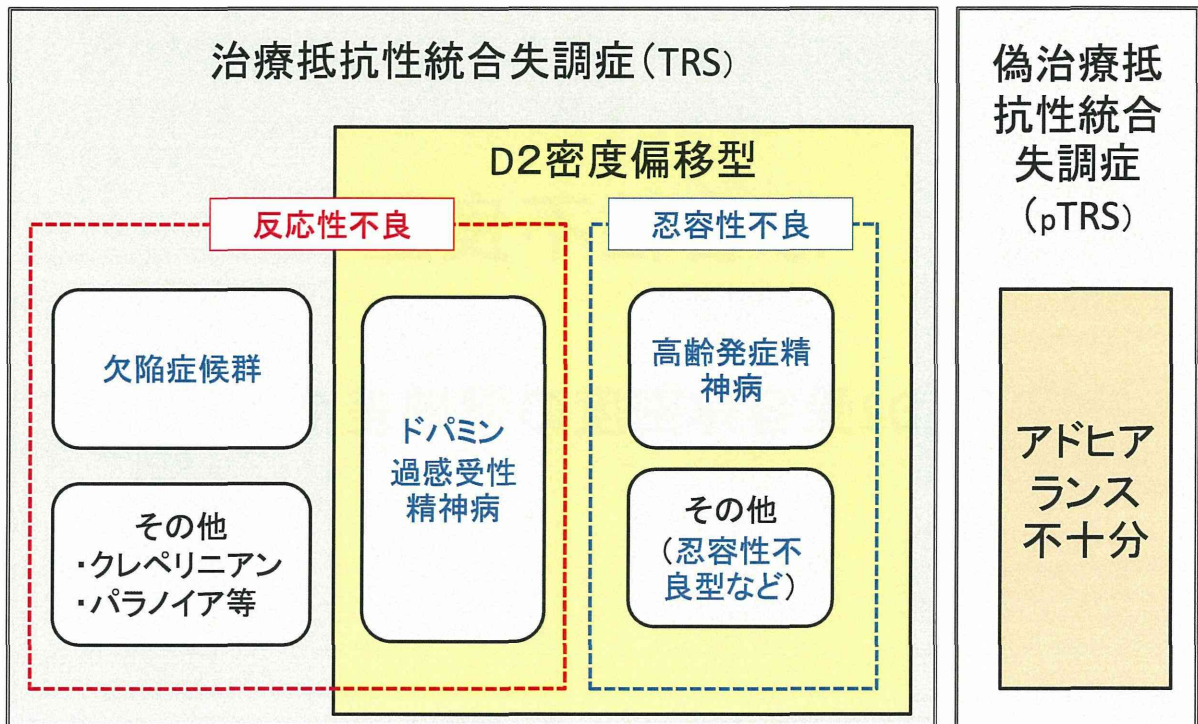


D2受容体密度と抗精神病薬の1血漿中消失半減期  
D2受容体数が60%に低下している場合



治療薬はクロザピンのみ？

# 治療抵抗性統合失調症の下位分類



## Further Consideration

- なぜ統合失調症では“非占拠受容体数”を制限する必要があるのか？
  - プレシナプス？
    - いつもドパミン濃度が高い？
    - 出始めたら止まらない？←抗精神病薬での脱分極性遮断
  - ポストシナプス？
    - DSPではアリピプラゾールで精神病症状悪化するが、躁病や覚醒剤精神病ではどうか？
- D2遮断薬では効果のない統合失調症の人たちの治療はどうするのか？

